



中央町福祉工房が制作したえと土鈴

No. 1719

平成23年 1 / 1
(2011年)

目黒区
携帯サイト



めぐろ区報

新春
対談

発行/目黒区 編集/企画経営部広報課 〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15 ☎3715-1111(代) ☎5722-8674(広報課) 目黒区ホームページ <http://www.city.meguro.tokyo.jp/>

夢に向かって!



新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様には
健康やかに新年をお迎えのことと存じます。今年
も引き続き、区民の皆様の生活を守り支える
とともに、将来に向かって夢の持てる区政にチャ
レンジしてまいります。

景気の低迷が続く中、区の財政は非常に厳しい
状況を迎えています。区税をはじめとする歳
入は、ここ数年で大幅に減少しました。区では
この2年間、歳入の減少分を補うため、区の貯
金にあたる積立基金を取り崩しています。

こうした状況に対応するため、昨秋に私を
本部長とする「緊急財政対策本部」を設置して、
事務事業の抜本的な見直しを行っているところ
です。区民生活への影響度や事業の緊急度を考
慮しながら、事業の廃止や延期、縮小なども含

めた、財政改善のための取り組みを進めてい
かなければなりません。

一方で、区民生活の安全・安心への対応、少
子高齢化対策、環境問題、ふれあいとぎわい
のまちづくりなど、区として取り組むべき課題
は山積しています。

事業の「選択と集中」を通じて、限られた財
源をより有効に活用し、「住みたいまち、住み続
けたいまち目黒」の実現を目指すことが私に課
せられた重要な使命です。この難局を乗り越え
るため、私自身が先頭に立ち、職員一丸となっ
て区政運営に取り組んでまいります。

この一年の皆様のご健康とご多幸を心から
祈りいたしますとともに、区政へのより一層の
ご理解とお力添えをお願い申し上げます。

目黒区長 青木英二

次代を担う子どもたちが、心も体も元気に育っていくために欠かせないこ
と。それは、自らが描いた夢や掲げた目標に向かって、ひたむきに努力す
ることです。

そこで新春号では、ホームランの世界新記録を樹立し、WBC(ワールド・
ベースボール・クラシック)で日本代表を世界一に導くなどプロ野球界に多大
な貢献をされた、文化功労者で目黒区名誉区民、福岡ソフトバンクホークス会
長の王貞治氏をお招きして、区長との対談を行いました。

その中で、青少年の育成や地域でのスポーツ振興、子どもたちの伸びやかな
育て方などについて、お話を伺いました。

区長 王さんは37年間にわたって目黒区にお住

まいで、お忙しいところ、まちづくりや地域で
の環境・健康づくりなどで区の事業にご協力的
いただいています。また、プロ野球界発展への貢
献や、世界少年野球大会の開催を通じて世界の
野球人口の裾野を広げられたご尽力などをたた
え、14人目の名誉区民に選定させていただきました。
昨年10月の顕彰式にもご出席いただき、
ありがとうございました。昨年は文化功労者に

も選ばれました。おめでとうございます。

王さん ありがとうございます。

区長 私にも3人の子どものお父さんですが、今日
は次代を担う子どもたちに「心も体も元気に育
ってほしい」という願いを込めて、王さんの体
験を紹介していただきながら、青少年の育成と
地域のスポーツ振興などについて、お話を伺い
たいと思います。

2面へ続く

伸ばしてあげたい

新春 対談

子どもたちの可能性



王貞治さん

王 貞治(おう・さだはる) 昭和15(1940)年5月、東京都墨田区に生まれる。早稲田実業高校を卒業後、読売巨人軍に入団。プロ野球選手として、世界記録となる通算868本の本塁打など数々の記録を達成した。昭和52年9月には世界記録を更新する756号の本塁打を打ち、初の国民栄誉賞を受賞。監督としても活躍し、第1回WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)では日本代表チームを世界一に導いた。現在、福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長、財団法人世界少年野球推進財団理事長。昭和49年から区内に在住。区の啓発事業に参加するなど区政の進展に貢献し、平成22年6月に目黒区名誉区民となる。同年11月には文化功労者に選ばれる。



目黒区長

青木英二

スポーツの 素晴らしさ

区長 王さんには碑文谷野球場で行われた目黒区少年野球リーグの閉会式と表彰式にも出席いただき、ありがとうございます。栄えある第1回「名誉区民王貞治杯」を授与されたチームの子もたちは、野球界の大先輩から贈られた、地元からプロ野球選手が出てほしいという力強く温かいメッセージに、目を輝かせていました。

王さん 野球は団体競技ですから皆で喜びを分かち合えます。例えば自分がバントに成功して得点に結びついたとき、チームに役立ててよかったという普通の生活では味わえない、野球を通じての喜びや感動につながるわけです。サッカーであればアシストですかね。

また、仲間と一緒に快感を持ち、力を合わせて何かをやりたい、そこを、いいこと、悪いことを争うところが、団体競技の良さだと思います。

区長 王さんの球歴といえば、選抜高校野球での優勝投手から始まって、プロ野球読売巨人軍時代には14回のリーグ優勝への貢献。この間に不世出の通算868本塁打と2千786安打、2度の三冠王などがありました。

区長 終戦後は野球が最大の娯楽だったと聞いていますが、王さんが生まれ育った墨田区では、家の周りの脇道や原っぱが野球場だったそうですね。

王さん 学校から帰ってカバンを家に放り投げて「野球場」に行く。すでに友達も来ていて、誰かの家で、夕ご飯よという声がかかるまで、目一杯「野球」を遊んで帰る時代でした。

区長 三角ベースもやりましたか。

王さん 人数が少なければ2塁ベースを省いた三角ベースです。フォームとか技術的にどうとかじゃない。ユニホームもないし、地域の子もたちが遊びを作り出した。遊びの原点ですね。今の子どもたちは既製の遊びだけで満足してしまっていて、自分たちで作り出す必要性を感じていないのではないかと

思います。

区長 小学生時代に早くも1人で4番、中学生時代には高校生主体のチームで活躍されたそうですね。

王さん 小学生時代に早くも一人で4番、中学生時代には高校生主体のチームで活躍されたそうですね。

区長 この頃、後にプロミネント打法ともいわれた「一本足打法」を編み出した恩師の荒川博選手



平成18年に行われた第1回WBCで、イチロー選手に語りかける王監督(当時) = 産経新聞社提供

「やってよかった」と思う言葉をかけてあげる

子どもの笑顔が指導者の原動力

区長 王さんは世界少年野球推進財団理事長を務められていますが、私がすてきたなと思っただけで、王さんが通算本塁打の記録を破ったハンク・アーロン氏とも、かつてのライバルという関係を超えて協力し、世界少年野球大会を開催されているところですね。

も、何回かやっているうちにできるようになります。すると「もっとやりたい」と表情に出してくる。これを見ると、本当にやってよかったと思えます。昨年は東京で開催しましたが、野球以外に歌舞伎の「連獅子」を見に行きました。子どもたちは目を丸くして皆びっくりしていました。盆踊りにも参加し、異文化体験をしました。日本の子どもも来日した子どもも貴重な経験をしたいと思います。今年が台湾で開催する予定ですが、将来的にはヨーロッパやアメリカでもやりたいと思っています。

区長 私も野球をするのが楽しくてしかたがなかったことをよく覚えていますが、仲間と達成感を分かち合うことは、心の成長にも大切なことですね。

区長 私の子もを見ていても思っているのが、最近ではテレビゲームなどに熱中して、体を動かすことが私の時代と比べてどんどん減っています。そういう点で、今日の大きなテーマでもある青少年の育成と、区民の皆様が一番身近な地域のスポーツ振興とのかかわり合いについては、とても切迫した問題だと思います。



本塁打756号の世界新記録を樹立、喜びいっぱいでダイヤモンドを回る王選手(昭和52年9月) = 産経新聞社提供

家族から学んだ

「誠実に生きる」

区長 昨年10月の名誉区民顕彰式でお聞きした、ご両親のお話がとても心に残っています。

中国から来日して中華料理店を経営されたお父様の仕福さん、お母様の登美さんの思い出や、家族のきずな、感謝の気持ちを持ち続けることの大切さなど、ご両親から学ばれたことをお聞かせください。

王さん 父は中国の、それこそ山の中から来日しました。学校なんて行ったこともない。字も読めず、朝から晩まで働きづめ。昔聞いた話では、料理に使うコークスの火を落とした後で

も、常連のお客さんが見えれば再び火をつけて料理したといいます。「自分でできることならしてあげる」という気持ちで、世の中のために誠実に生きてきた父だったと思います。

母はそんな父を支えてきました。108歳まで生きましたから、女性のほうが強いなと改めて思いました。

私の家族は、普通の平凡な家庭だったと思います。生きるために一生懸命働いた両親の生きざまから、じみちに誠実に生きることが平凡だが一番いいんだと学びました。私もその精神を

受け継いできたつもりです。自分たちが必要とされることがあるのなら、できる範囲で協力するのは当然だと思っています。

区長 素晴らしいご両親だったんですね。最後に、次代を担う子どもたちにもメッセージをお願いします。

王さん とにかく自分で描いた夢を追いかけてほしい。目黒区には立派な野球場があり、たくさん指導者がいて、野球をやる環境がそろっている。仲間と競争しながら一生懸命に頑張ってほしい。

小さいときは、何事もうまくいかないのは当たり前。がっかりすることはない。今日できなくても、明日はできる。そういう思いを持ってやってほしい。いつのまにか、できるようになる。知らず知らずに成長していくんですね。

区長 本日は長い時間、ありがとうございました。

夢に向かって努力することの大切さとともに、子どもを指導する大人が、喜びを感じながら子どもの可能性を伸ばすよう接していくことの大切さを再認識しました。



昨年10月の名誉区民顕彰式で行われたトークショー



優勝したジュニアファイターズ

準優勝のヤングホークス

第1回「名誉区民 王貞治杯」 優勝・準優勝チームとの交流

対談後、王さんと区長が両チームの子どもたちと交流しました。王さんは「夢を追いかけてください。つらくても続けてやること。ごはんを食べるように無意識にやるのが一番いい」と、継続は力なりを強調していました。



「小さいときは型を考えない方がいい」



「素振りでも風を切る音をチェックしよう」

両チーム選手の感想
ミニインタビュー

ジュニアファイターズ

清久隆弘・捕手

野球を元気にやることは健康を保つこと。それを目標に野球を続けて頑張っています。



ヤングホークス

石毛孝尚・三塁手

勝たなければ勝たなかった。後輩にそれを託したい。夢は元プロ野球選手の父を超える選手になり、さらには王さんも超えられたらいいと思っています。



身ぶり手ぶりで、子どもたちに熱い指導をする王さん。子どもたちも真剣です